

平成 29 年度 学校評価報告書

県立篠山鳳鳴高等学校

1 教育方針

明治9年、私立篠山中年学舎の創設以来の建学の精神は、『一以貫之』である。この言葉は、一生涯を通じて真心や思いやりの心を大切にした生き方を貫くという志を表している。また、昭和26年、「学校の教育方針と生徒の生活目標との融合一体を示すもの」として制定された“生徒信条”が、今日までの校風と本校の歩みを導いてきた。

生徒信条 「1. 勉強第一 2. 正義の実行 3. 身体の強健」

いかに時代が変わろうとも、郷土を愛し地域社会の発展に寄与する人間の育成、自己実現を達成する自立した人間の育成、国際社会に貢献できる人間の育成は、本校の使命である。

2 教育目標

- (1) 地域社会の発展に寄与する人間の育成
- (2) 自己実現を達成する自立した人間の育成
- (3) 国際社会に貢献できる人材の育成

学校経営の重点			
番号	経営の重点		具体的な取組
①	自ら課題を見つけ、自ら解決していく力の育成	1	教員からの一方的な講義で知識を覚えるのではなく、生徒たちが主体的に仲間と協力しながら課題を解決するような指導・学習方法を進める。
		2	総合的な学習の時間、探究の授業を通して、自己表現力をつけるための支援をする。
②	個に応じた知識理解の伸長と自尊心の涵養	1	「ひょうご学力向上サポート事業」や「インスパイア・ハイスクール事業」を活用し、学力の向上を図るための教育環境づくりを進める。
		2	ひとり一人の能力・適正に応じた教育及び学習指導を行うことにより、達成感があじわえ、生徒の喜びと学ぶ意欲を持って登校する学校づくりを進める。
		3	あらゆる行事や生徒会活動、部活動等で生徒が主体となって活躍できる場を設け、達成感、充実感があじわえる活動を進める。
		4	キャンパスカウンセラーや関係機関等との連携、教職員のカウンセリングマインドの向上等を図ることにより生徒の悩みを受け止める教育相談体制を充実させる。
③	保護者や地域から信頼される学校づくり	1	ホームページの充実、学校だより、学年通信、保護者懇談会等を通じて、保護者や地域住民等に対して学校生活や行事、部活動等の情報発信を積極的に行う。
		2	保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒ひとり一人の成長を支援する。
		3	「シラバス」（3年間を見通した教育計画）を作成し、生徒・保護者等へ配布するとともに、広く授業公開等を実施することにより、本校教育の信頼づくりに努める。
		4	地域の伝統文化・行事の継承や生涯学習、PTAや地域住民と連携したふるさと貢献活動、国際交流活動等に積極的に参加することにより、ふるさとを愛し、社会の一員として積極的に生きる人材を育成する。
		5	学校評価とその公開を積極的に進めることにより、本校教育に対する地域住民の期待や要望を教育活動に活かすことに努める。

平成29年度 学校評価結果

※以下の各項目について、達成度を4段階(1できなかった 2あまりできなかった 3まあまあできた 4よくできた)で評価しました。

1 学校経営の重点における自己評価

番号	領域	評価内容	対象となる具体的取組	H29結果
1	学校経営の重点	個に応じた知識理解の伸長と自尊心の涵養	① 「インスパイア・ハイスクール事業」や「ひょうご学力向上サポート事業」を活用し、生徒自らが積極的に言語活動や探求活動等を通じて学力向上を図るための教育環境づくりを進める。	①2.8
			② ひとり一人の能力・適正に応じた教育および学習指導を行うことにより、生徒が喜びと期待を持って登校する学校づくりを進める。	②2.9
			③ キャンパスカウンセラーや関係機関等との連携、教職員のカウンセリングマインドの向上等を図ることにより、生徒の悩みを受け止める教育相談体制を充実する。	③2.9
2	学校経営の重点	保護者から信頼される学校づくり	① ホームページの充実、学校だより、学年通信、保護者懇談会などを通じて、保護者や市民等に対して学校行事や学年の取り組み、部活動などの計画や成果を積極的に発信する。	①3.4
			② 家庭訪問や面談等を通じて学年・学級担任等と保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒ひとり一人の成長を支援する。	②3.3
			③ 総合的な学習の時間や高校生就業体験事業、科目「体験活動」等を通じて、職業研究、職業体験を積極的に進めることにより、生徒の健全な職業観や勤労観を培うとともに、進路希望の自己実現を支援する。	③2.8
3	学校経営の重点	地域に信頼される学校づくり	① 市・市教育委員会、幼稚園・保育所、小・中学校等と連携し、地域で生まれ地域で育つ子供たちの最終の公立学校(公的後期中等教育機関)としての責任を果たす学校づくりを進める。	①2.9
			② 学校教育全体を通じて、地域の伝統文化・行事の継承や生涯学習スポーツ、PTAや地域住民と連携したふるさと貢献活動、国際交流活動等に積極的に参加することにより、ふるさとを愛し、地域社会の一員として積極的に生きる人材を育成する。	②3.0
			③ 学校評価とその公開を積極的に進めることにより、本校教育の可視化を図るとともに、地域住民の期待や要望等を教育活動に活かすことに努める。	③2.7
4	学校経営の重点	教職員が自信を持って働ける学校づくり	① 教材研究・授業研究や各種研修による授業の充実を図るため、ノー残業デー、ノー会議デー、ノー部活デーを設定し、教職員ひとり一人の資質向上と心身の健康増進に努める。	①2.2
			② シラバス(3年間を見通した教育計画)を作成し、教職員の共通理解と教育内容の平準化を図るとともに、シラバスを生徒・保護者等へ配布、授業の公開等により、本校教育の信頼づくりに努める。	②2.9
			③ 教職員が互いを認め合い、気軽に相談できる職場づくりに努めることにより、教職員が自信と生き甲斐を持って働ける学校づくりを進める。	③2.6

2 教育活動各項目における自己評価

番号	領域	重点事項	評価項目	結果	
5	学校運営	開かれた学校づくり	① 家庭や地域への情報発信 ② 地域、家庭、関係機関との連携 ③ 外部評価を活用した学校運営の推進	①3.1 ②3.0 ③2.6	
6		生徒指導	① 生徒指導方針の確立と指導体制の推進 ② 生徒の内面の理解を図る指導の工夫 ③ 学年間の連携及び家庭との連携	①2.6 ②2.6 ③2.5	
7		進路指導	① 進路指導体制の充実 ② 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上 ③ 生徒の自主的な進路選択能力の育成	①2.8 ②2.8 ③2.6	
8		教職員の資質向上	① 実践的指導力の育成 ② 計画性を持った研修の充実 ③ 授業改善への取り組み	①2.6 ②2.4 ③2.6	
9		危機管理体制の整備	① 実効性のある学校防災マニュアル策定 ② 家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	①2.8 ②2.5	
10		勤務時間の適性化	① 事務の見直しと勤務の縮減 ② 会議等の精選及び短縮	①1.8 ②2.2	
11		学校運営全般	① 学校行事の充実及び精選 ② 学年・学級経営の充実 ③ 各種委員会の充実	①2.5 ②2.9 ③2.4	
12		教育課程	特色ある教育課程の推進	① シラバスに応じた適切な学習計画の推進 ② コースの特性を生かした教育課程の推進 ③ 多様な進路に対応した学習計画の推進	①2.9 ②2.4 ③2.5
13		教育課程	基礎・基本の定着	① 生徒の学力の把握と評価基準の設定 ② 授業改善の推進	①2.8 ②2.8
14		教育課程	個に応じた学習指導の徹底	① 評価方法の創意・工夫 ② 習熟度及び選択科目の設定による指導形態の工夫	①2.5 ②2.8
15		教育課程	総合的な学習の時間	① 生徒の自主的な活動につながる学習の工夫 ② 教職員の協働体制の確立	①2.6 ②2.6
16	教育課程	特別活動	① 自主的・実践的な活動の活性化 ② 学校行事の内容の充実	①2.6 ②2.7	
17	課題教育	特別支援教育・保健教育	① 特別支援教育の推進 ② 課題を抱える生徒への指導体制の充実 ③ 保健教育の指導体制の充実 ④ 教育相談の充実	①2.8 ②2.8 ③2.7 ④3.0	
18		防災・安全教育	① 命を大切にすることを教育の推進 ② 防災安全教育の指導体制の充実	①3.0 ②2.8	
19		人権教育	① 人権教育指導体制の確立 ② 確かな人権意識の育成	①2.8 ②2.7	
20		環境教育	① 環境教育の指導体制の充実 ② 学校美化の向上	①2.3 ②2.5	
21		学校図書教育	① 図書室の利用向上 ② 読書意識の向上	①2.5 ②2.5	
22		学校の個性化・特色化	① 研究指定事業(インスパイアハイスクール・ふるさと貢献事業 等)の推進 ② 外部講師の活用	①3.0 ②2.9	

■各部、学年の重点事項

総務部					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと次年度への展望
		○	各部と各学年との連絡・調整に努め、より円滑な校務運営を図る。	各委員会、各学年、各種委員会の連絡・調整を綿密に行い、円滑な公務運営が図られるようにする。	校務運営委員会や職員会議の議題の整理や準備、記録などをしっかりと行えた。さらに効率化を図り、確実かつ迅速に連絡・調整ができるようにしたい。
		○	行事予定を提示する。また、学校行事の精選と内容の充実を図る。	年間行事計画に基づいて2ヶ月前には月間行事予定を提示する。又、次年度の年間行事計画の見直し作成を行う。	各部と各学年との連携し、早期に行事計画を作成できた。教室掲示等で生徒への周知もはかれた。学校行事の精選には課題が残った。
		○	PTA、地域社会との連携を一層密にし、開かれた学校づくりに努める。	鳳鳴祭(体育祭・文化祭)、校内長距離走大会等の学校行事をPTA、地域との連携を図り、スムーズに運営ができるようにする。	体育祭、文化祭などの学校行事等で、PTAと連携を深めることができた。地域社会との連携は十分にできなかった。
○	○	○	高校生ふるさと貢献事業等を推進し、体験学習をはじめとして国際理解を深める。	全校生による地域の清掃活動や、インターアクト部による地域貢献活動を行う。また、オーストラリア・アメリカ等への留学を通じて国際理解を深める。	インターアクト部を中心に地域貢献活動を行い、また、国際理解を深める活動をすることができた。委員会を定期的に開き、各担当者と調整しながら進める必要がある。
		○	早期に学校危機管理マニュアルを作成し、全職員に周知徹底を図る。	7月・12月の年2回の防災訓練を実施し、防災・危機管理への意識を高める。次年度の学校危機管理マニュアルを作成する。	学校危機管理マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、7月には火災、12月には地震から火災の防災訓練を行うことができた。
		○	オープンハイスクール等の広報活動を通じて、本校の教育方針や教育内容のPRに努める。	オープンハイスクールを開催する。また、ホームページの更新を迅速に行えるようにし、年間10回の学校通信を発行し、関係機関に送付する。	7月と8月にオープンハイスクールを開催し多くの中学生や保護者の参加を得ることができた。ホームページの更新を迅速に行えるよう努めた。
		○	環境美化活動を積極的に推進し、学習環境の整備・美化に努める。	環境美化委員による清掃用具の点検・ゴミステーションでのゴミの分別を行う。環境美化・清掃の年間計画を作成する。	平常の校舎内の清掃に加え、学校行事の前には、グラウンドなどの外回りの清掃を行った。次年度は大掃除として定着させていきたい。
○	○	○	生徒の読書活動を推進し、学校図書館(図書室)を自学自習、および読書や研究に活用できるよう整備と維持に努める。	図書委員会を中心に全校生が本と触れあう機会を作る。また、教科や学年と連携して、課題研究に図書室を活用する。	図書委員とともに図書室の環境整備や読書推進に取り組めた。また、今後も教科や学年と連携して授業での図書室活用を行い、生徒の図書室利用のきっかけ作りをしたい。
○	○	○	人権教育を通して、自己肯定感や人権意識を高め、互いの命と人権を尊重する態度の育成に努める。	「情報モラル教育講演会」、「命の教育講演会」を全校生を対象に実施する。人権HRを各学期に計画する。教育研修として「DV」および「同和問題」に関する研修を行う。	自尊感情の育成、共生社会への理解といったテーマに則した人権HRを外部講師を招くなどして実施することができた。来年度は教員研修を充実させたい。

教務部					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと次年度への展望
○	○	○	授業時間数の確保をする。	定期考査日の工夫をして確保に努めている。	授業時間数は確保できている。引き続き努めていく。
○	○	○	教育課程の編成について、選択科目数、講座編成の見直しをする。	継続も含めて見直していく。	選択科目について見直す時期にきている。次年度、見直していきたい。
		○	中学校教員、中学校保護者へのアピール	6月末には研究授業を含めた公開授業を行った。(中学校教員向け)	研究授業は好評であった。公開週間も含めて継続していきたい。
○	○	○	研究指定「ひよご学力向上サポート事業」	問題を作成中である。早めの実施ができればと考える。	共通テストを12月に実施し、分析を行った。
○	○	○	「学校の先生になろう講座」	7月には小学校教諭を招いて講座を開く予定である。	7月に小学校教諭、12月に高校教諭を招いて講座を開いた。続けていきたい。
○	○	○	授業評価改善	フィードバックが早くできるように努める。	前期分のフィードバックが遅れた。評価項目も見直しながら改善していきたい。
○	○	○	総合的な学習の時間、探究について	計画を分析、見直しをしながら行っている。	計画をもとに実施した。次年度はこの実施結果をもとに計画を行う予定である。

生徒指導部(保健関係含)					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと次年度への展望
	○	○	登下校マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の定例交通指導、春秋のPTAと合同での交通指導の実施。昨年度、事故、苦情のあった場所などを考慮して配置場所を工夫していく。 ・列車指導の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例交通指導等は計画通り実施することができた。 ・事故9件(内自損3件)、苦情10件(スマフォ、通行方法等)。学期当初に多いので始業式などで注意喚起していきたい。
	○		生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会スローガンパネルの作成・展示。 ・朝のあいさつ運動の実施。 ・鳳鳴祭ポスター、その他校内掲示物の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会スローガンパネルの作成・展示。 ・鳳鳴祭、2回の球技大会の運営を行った。 ・あいさつ運動、募金活動、暴走族追放キャンペーン、丹波学びっ子フェスタ、篠山市キャリア形成教育支援事業～夢プラン～、交通マナーupキャンペーンなどの活動を行った。
	○		各種生徒会行事の内容見直し		
	○	○	部活動活性化に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・部長会等の開催。 ・ノー部活動デーの完全実施をめざし、メリハリのある活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軟式野球部が県大会優勝し全国大会に出場した。全国大会ではベスト4に進出、えひめ国体にも出場した。かるた部も全国高校選手権、全国総文に出場した。 ・陸上部、放送部、かるた部、合唱部が近畿大会、近畿総文に出場。 ・これら以外にも多方面に活動、活躍してくれている。 ・部長会は1回しか開けなかった。 ・ノー部活デーはほぼ実施。
	○	○	学校保健活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部対象の心肺蘇生法講習会を行う。 ・熱中症対策などクラス掲示を行う。また、保健委員を通じて生徒に呼びかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに実施できた。 ・講習会は、毎年同じ生徒が参加することなく、いろんな生徒に参加してもらい呼びかけが必要。
	○	○	安全な学校環境を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対しての呼びかけを安全防火委員を通じて行う。 ・安全点検(定期)を環境美化委員会でを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に生徒の活動場面を設定できなかった。来年度は活動が活発になるような計画を立てていきたい。
	○	○	校内教育相談を継続的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の内容の充実(即活用できるようなもの)。 ・必要であれば、カウンセラー、保護者、生徒、職員と連携を行い対策を早期に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングマインド研修を2回実施した。 ・生徒の相談の継続が少なかったため、声かけ等をして継続できるようにしたい。
	○	○	特別支援教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会を、年間を通じて行い、職員の共通理解を図る。 ・コーディネーター、学年、指導部、関係職員の情報の共有。 ・中学校訪問時の情報収集。 ・サポートファイル等の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングマインド研修の内1回は、特別支援教育について研修を行った。 ・定期的な特別支援委員会を行い、職員間での共通理解を図る必要がある。

進路指導部					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと次年度への展望
		○ ○	生徒のキャリア形成の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、3年生は、7名の生徒が就職希望であるが、そのうち6名は公務員希望である。全学年とも希望者に、ガイダンスや公務員模試対策、面接練習等で、勤労観を培わせることを考えている。 ・進路講演会等については、7月と12月に実施する予定である。 ・インターシップの案内の回数を増やし、生徒が進路意識を高められるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・70回生の公務員試験の状況は、内定者が6名、不調者は1名だった。 ・8月に、1年生2名が「県庁インターンシップ」に参加した。 ・通常の進路講演会に加え、2年生は12月に、地域の職業人を招いた「夢授業」を行なった。 ・3年間を通じた、計画的・体系的なキャリア形成指導ができるよう、精査していきたい。
		○ ○	生徒の主体的に学ぶ姿勢の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が利用しやすいように、進路閲覧室を整理整頓する。また、部屋に入ってみたいと思わせるよう、案内をする。 ・パソコンについては、インターネット回線がつかないため、事務に依頼し、利用できるようにする。 ・今年度は、夏季・冬季補習の内容を充実させ、生徒が「何を学ぶか」を明確に理解して受講できるよう工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標としていた進路閲覧室の環境を整えるとともに、放課後に自習ができる教室を新たに設置した。広々と学習できる環境だと、生徒の反応は好評だった。 ・また、英語教室に並んで、国語教室と数学教室を作った。生徒の意欲が増すような環境づくりまではできなかったが、次年度以降により改善したいと考えている。 ・夏季、冬季補習の準備を早い時期から準備し、生徒が受講したいと思う講座作りに努めた。受講人数も増加し、次年度につながる土台ができた。 ・パソコンは事務をチェックしてもらったが、ネット回線の復帰には至らず、次年度に使用できるようにしたい。 ・1年生の学習合宿を実施し、大変満足だったというアンケート結果だった。「来年もやってほしい」という声も上がり、成功に終わった。2・3年生は、学習合宿に代わる集中補習を実施したが、次年度ではより充実した内容になるような工夫をする必要がある。
		○	生徒・保護者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度滞っていた、進路通信を発行し、教員との共通認識を深めつつ、生徒へ情報提供を積極的にする。 ・保護者進路研修会の実施回数を2回にし、保護者が参加しやすい時期に設定する。また、より興味関心を持てる内容にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での進路指導委員会での連絡を通じ、迅速に教員に共通理解を図り、生徒への情報提供ができた。次年度は、「進路のしおり」の内容を充実させ、生徒と保護者が進路について考えるきっかけとなる情報にしたい。 ・保護者進路研修会を2回行なった。第2回は進路指導部員が主体となって、保護者とより進路について協議・研究できるよう、グループでの活動とし、議論を深めることができた。
		○	部と学年及び学年間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導委員会を1カ月に1回を目標に実施し、進路に係る内容を全教員で共通認識を図る機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、初めての進路指導委員会を立ち上げ実施したが、概ね目標の月1回実施ができた。来年度は、より効率的に会議を進めることができると考える。 ・3学年と進路指導部での、進路に係る会議も4回実施し、生徒一人ひとりの進路について、議論を深めることが出来た。
		○ ○	主体的な進路選択を支援する進学指導	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習がいかに大切かを生徒に理解させ、各学年平日プラス30分、休日プラス1時間を目標に生徒に常に伝え続ける。 ・生徒が「なりたい自分」に近づくよう、情報提供を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に対しては、学習時間確保の重要性を、春のオリエンテーション合宿で周知できた。3年生に対しては、夏休み前後に学習の心構えを話した。2年生に対しての情報提供をする機会が少なかったため、学年集会等に話す時間を設定するようにしたい。
		○ ○	人や社会とかかわる力の育成と就職指導	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人にガイダンスの講演を依頼する等、生徒が、働くことについてイメージしやすいように指導内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上述の、2年生に対する「夢授業」では、篠山市内の身近な職業人約15名に講演をいただき、生徒の進路に対する意識の向上、職業観の涵養をすることができた。
		○ ○	社会人として自立していくことができる教育「キャリア教育」を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・就職指導と重複するところもあるが、働くことの意義や喜び、大変さをイメージしやすいように指導内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員ガイダンスや看護医療説明会を実施することで、仕事内容や経験談を講師から聞くことができ、生徒はより具体的にイメージしながら学ぶことができた。次年度は3年生だけでなく、全学年の希望者に広く情報提供し、参加を促せたい。

第3学年					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと新1年生の取組み
○	○	○	基本的な生活習慣の確立	・精神面で不調となる生徒を早期に発見し、支援する。 ・生活のリズムを崩さないように支援していく。	・学年会を通して、各生徒の状況を全員で把握し、指導した。 ・学校で勉強させることを通して、生活のリズムを維持させた。 新1年生の取組み ・家庭学習の習慣、客観的になすべきことを意識する態度を身につけさせる。 ・遅刻、欠席の際は家庭と連絡を取る。
○	○		基礎学力の定着	・朝の小テスト、英語においてはボキャブラリーコンテストを実施することにより、基礎的な知識を定着させる。 ・長期休業中、希望者対象に補習を実施する。 ・夏休み中に集中補習を実施する。	・朝の小テストや補習を通して、学力を定着させた。 ・補習に関しては、進路指導部と連携し、放課後や長期の休み期間中、自宅学習期間中に実施した。 新1年生の取組み ・オリエンテーション合宿で中学校の復習を徹底する。 ・朝の小テストで知識の定着を図る。
	○	○	部活動に加入する。	後輩の範となる行動をするように促す。	・最後まで意欲的に活動できた。 新1年生の取組み ・各クラス・学年集会で繰り返し呼び掛け、加入率を上げる。 ・部活動で集中力を養うことを目標とする。
	○	○	保護者・地域との連携強化	・夏休み中に三者面談を実施する。 ・必要に応じて家庭への連絡、家庭訪問を行う。 ・5月に保護者会を実施した。	・進路決定に向けての面談を夏休み、2学期末、1月末に行った。 ・必要に応じて家庭への連絡を行った。 新1年生の取組み ・地域の一員としての意識を高め、高校生活を充実させる。 ・三者面談や保護者会の開催などを通じ、家庭との連携を強化する。
	○	○	学年における情報の共有	・火曜7時間目に会議を開き、打ち合わせをするとともに、学年の課題について話し合う。今年度は教務部、総務部、生徒指導部、進路指導部からも参加して実施する。	学年内で情報交換を行い、学年団や教師間で情報を共有し、指導がぶれないようにした。
	○	○	進路目標の明確化	・各自の志望校・就職先を具体化するとともに、それに向けた具体的な取組みを指導する。	・志望校決定後は、面談、補習等を通して進路実現に向けて努力することを通じた。 新1年生の取組み ・文理選択について考えさせることを通して、自らの進路目標を徐々に明確化するように指導する。 ・進路講演会や進路アンケートを実施する。
		○	安全教育の推進	・随時、ホームルームで指導する。	・随時、ホームルームで指導する。

第2学年					
①	②	③	重点事項	具体的な取組み	今年度の振り返りと次年度への展望
○	○	○	基本的な生活習慣の確立	挨拶、体調管理、掃除、提出物等の徹底に昨年より取り組んできた。「ちゃんとやって当たり前」という雰囲気はできている。ただ、2年に入り、できていない者とできていない者(少数)との差が開いている。今後も徹底して取り組みたい。	全般的に、挨拶・体調管理・掃除はできている。時間管理や提出物には個人差がある。次年度は、いよいよ社会へ出て行く前の最後の年となる。一人ひとりが、実社会で通用する生活習慣を確立できるよう自覚を促し、徹底して取り組みたい。
	○	○	基礎学力の定着	毎週の小テストと週末課題で基礎学力の定着をはかっている。さらに夏季補習では学び直しのための講座(中学、高1の復習)を設けて、苦手科目の克服をサポートしている。(もちろん得意科目を伸ばす講座もある。)	次年度も各教科で小テスト・課題を実施し、小さなことを積み重ねながら学力を培っていく姿勢を養う。また休業中の補習をさらに充実させ、生徒のニーズに合わせた講座を設け、個々の生徒が意欲的に学べる環境づくりを心掛けたい。
		○	部活動に積極的に参加する	昨年度、部活を辞める生徒が多少いたが、大半の生徒が継続して頑張っている。今年度は各部においてリーダーシップを発揮すると期待している。	今年度は、さまざまな部活で生徒達が活躍し成果をあげた。次年度も引退まで悔いの無いよう、各部において活動し後輩に良い手本となって欲しい。
		○	保護者・地域との連携強化	三者面談、保護者会等の他、適宜電話連絡や家庭訪問により、家庭とのパイプを太くすることに努めている。また、高校生が地域とつながれる機会を積極的に活用したいと考えている(ボランティア、部活etc)。	今後も、日常の電話連絡、三者面談、保護者会等で家庭とのパイプを太くし、意思疎通をはかりやすくしておきたい。引き続き高校生が地域とつながれる機会があれば積極的に活用していきたい。
		○	学年における情報の共有	今年度より、各部から学年担当が学年会に参加するシステムが開始し、各部との連携がとりやすくなったと感じる。学年の方針や生徒の様子等を毎週共有する時間を持っている。	毎週実施の学年会では、学年団と各部の学年担当が参加し、生徒状況・行事の運営・学年の方針等について、きめ細かに意識を共有し、学年運営や学校運営に活かすことができた。来年度も学年会を有効に機能させてきたい。
		○	進路目標の明確化	7月には、キャリア教育講演会、夏休みには大学等のオープンキャンパスに向けての課題を設けている。2学期には約30人の職業人と生徒との座談会を計画している。失敗談も含め働くことについてしっかり考えさせたい。	今年度実施したキャリア教育・進路HRの中でも特に職業人との座談会「夢授業」は生徒達に大好評であった。次年度は、これまでの経験をもとに自分の進む方向を決定しチャレンジしていく年となる。進路実現を全力でサポートしたい。
		○	安全教育の推進	朝の交通安全指導、防災教育、情報モラル教育、日頃の呼びかけ等で、安全に対する意識を高める。	通学指導、防災教育、情報モラル教育、日頃の呼びかけ等で、安全に対する意識を高める。

第1学年					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと次年度への展望
○	○	○	基本的な生活習慣の確立	オリエンテーション合宿で正しい生活習慣についての意識付けを行った。正しい健康管理、生活管理をホームルームを通じて呼びかけ、挨拶、清掃、提出物などの徹底を図った。	インフルエンザの流行時以外は欠席者も少なく、おおむね健康管理や生活管理はできているようだ。遅刻や提出物の遅れが多い生徒がごく一部に見られるので、根気よく指導を続けていきたい。
○	○		基礎学力の定着及び向上	毎日の授業を大切にすることを呼びかけると共に、小テストの実施や再テスト、課題の提出の徹底をはかり、必要に応じて補習や考査前の学習会を計画し、実施した。	学習態度はおおむね良好である。毎週英単語と漢字の小テストを実施し、基礎学力の定着を図った。定期考査前にはテスト対策補習を実施した。次年度は、長期休業時における補習体制を整えて、学習意欲をさらに高める取り組みを充実させていきたい。
	○	○	部活動への加入する	4月当初からの部活動への積極的加入を呼びかけ、現在多くの生徒が部活に加入し、活発に活動している。	大半の生徒が何らかの部活動に加入し、熱心に活動をしている。来年度は各部の中核として、さらに活動を盛り上げてくれるものと期待している。
	○	○	保護者・地域との連携強化	学年通信の発行や保護者会の実施を通じて、学校での様子を知らせると共に、特に健康面や学習面で不安のある生徒に対しては保護者との面談等を行い、連携を図った。	左記の活動などを通じて、保護者との生徒情報の共有や生徒指導の連携を図った。地域の社会啓発活動に関わる応募作文にも積極的に取り組んだ。かるた大会を通じて地域の小学生との交流活動を行った。
	○	○	学年における情報の共有	週一回学年会を実施し、担任、副担任及び学年担当の各部との間で、生徒情報の共有や、指導計画の確認を行った。学年の授業担当者を集めて、生徒情報の共有化を図った。	週一回の学年会や専門部との連携を取りながら、生徒情報の共有化と、指導計画の適正化に努めた。次年度も同様に、生徒の実態把握に努め情報の共有化を図ってきたい。
	○	○	進路目標の明確化	総合学習の時間を使って自己診断テストなどを実施し、自己の適性を調べる共に、働くことの意義について考えさせ、進路実現に向けての意識を高めた。文理選択の説明会を実施し、進路希望調査を行うと共に、それをもとに三者面談を計画している。	自己診断テストを通じて、各々の適性を知ると共に、2年次の文理選択に向けての説明会を実施し、それぞれの希望や適性に合った進路選択ができるよう、三者面談や個人面談などを行った。さらに学年進路集会を行い進路についての知識を深めると共に進路意識を高めた。
	○		安全教育の推進	学年集会などの場で、交通マナーの遵守を呼びかけた。自転車通学者に対しては保険加入を義務づけ、自転車点検などを行った。スマホ利用における情報漏洩の危険性について、専門家による講演を聞き、情報管理の重要性を認識させた。	学年集会やホームルーム活動の場を通じて、正しい交通マナーの遵守を呼びかけた。専門家の講演を通じて、スマートホンの安全な利用方法を学ぶと共に、ラインやツイッター利用時の問題点を指摘し、マナーを守り適切に利用することを呼びかけた。